

第2回 母と子とをいかにつなげる

～医療と共に取り組む女性のための鍼灸ケア～

講演者 藤原 亜季 さん <天使のたまご>
(女性のための健康医療研究グループ(協会)代表)

- 妊娠・出産・育児 について。
とてもハッピーなこと。(本人にとっても家族にとっても)
→ でも ネガティブなイメージも。(大変そう、辛そう etc.)

↓ ストレスケアを重視したマタニティケアをつくらう!

妊婦のためのケアをする為に起業。

妊娠中や産後とストレスの関係は様々な医学論文でも報告されている。
→ 赤ちゃんへの影響も! (発育不全など)

- 妊娠中は
首・肩こり、腰痛、むくみ、つわり など 様々な症状がある。
鍼灸やロマセラピーによる自然治癒力向上が支えになっている!

満足度 100%

- マタニティ鍼灸からの発展
鍼灸(東洋医学)の経験的説明では医療との連携は難しい。
→ 昭和大学で大学院に進み、研究にかまを入れている。

↑ 針がストレスにきく。オキシトシンの関連性など。

感情の質 = 人生の質 「なぜやるか」
↓ 「いかにつなげる」

- 女性のケアはなぜ必要か。
現在 30代女性の 3人に1人 が未婚。(都内では2人に1人)
不妊は 5.5組に1組
(10人治療して、2人妊娠しても、1人は流産になってしまう。→ 出産できるのは 10%)

妊産婦にはマイナートラブルが多い。西洋医学では対応できない!

産後1年以内に亡くなる要因は 自殺 が圧倒的に多い。
産後うつは 10人に1人がなってしまう。私は平気。← こねが危険。
(産後2週間～)

- 臨床現場での実践。 — 気のせい?
未病… 検査をしても異常がない。でも 何となく体調が悪い。→ 手遅れ病気になる。→ 怖い!
→ こねから病気になる前段階 かもしれない!
未病を治療していくのが 鍼灸(東洋医学)である。

△ 針 髪の毛くらいの細さから 少し太いものまで。
先はとがっていておろろ、丸くなっている。
ニール状のもの、電気を流すものと種類も様々である。

- ストレスに対する鍼灸治療とマタニティケアの応用。
ストレスは人間では 慢性的(慢性ストレス) である。
→ 病気の発症につながる。

ストレス(動物)
・ 原因、かわき
・ 安心できるか
・ 環境(暑寒)

鍼灸を行って分泌される オキシトシン は コルチゾールやアドレナリンなどを下げ、ストレスを軽減させる。

※ オキシトシンは袋状の内臓を収縮させる役割だけでなく、中枢系にも作用し、感情にも影響がある。

- 繁殖に必要なこと。
パートナーを見つけ、結婚、性行為、出産、育児をしなければならぬ。
→ 全て オキシトシン の効果。
分泌するには五感の心地良い刺激が必要。
最も重要なのは 触感 刺激である。

← 看護師の手当ても触感刺激!

○ 妊娠中とオキシシン

正期産になるまでは、子宮のオキシシンに対する感受性が低く抑えられており、

子宮を収縮させる、脳へ直接作用する。

妊娠中の鍼灸も 20年前までは良くないとされていたが、

近年では妊娠の諸症状に対して効果的であると立証されている。

○ 天使の「まじ」のマタニティケアとは

産婦人科医の指導を受け、自身の経験を活かしながら、複合的なケアを行っている。

○ 医療連携と今後の展望

西洋医学だけでは補えないことも東洋医学も使って互いに補完しよう。

→ 「ポーターシップ」を結ぶ。(婦人科・産科・不妊)

国外にも!!

○ 求める今後のマタニティ鍼灸

スタビのような存在?!

今では病院にコンビニカフェは当たり前にある。

当たり前にある存在へ。社会認知される存在へ! (I.N.)

10.2

母と子をいたわりつなげる ~ 医療と共に取り戻す女性のための金銭的ケア ~

「天使のたまご」 藤原亜季様

(はり・まろ) ポズティブ

産婦人科と金銭的の融合を実現させた
金銭的安心マニエーション 多職種間交流

東洋医学

妊娠 → 出産 → 育児

緊張、ストレス、不安などに子どもを欲しがらなくなる人も増えている。

「母に子どもだから耐えられない」というのが日本人の
我慢を強いる女性が増えている → 女性をいたる！ 昔からの考え

ストレスは妊婦に影響

流産 赤ちゃんの发育
分娩日延期

妊娠前 → 月経困難症
不妊症

妊娠中 → 体の不調
お腹の張り

産後 → 乳汁分泌
産後うつ 他2

主治

首肩のこり 肩こり

腰痛 - おくみ
便秘感

不妊治療

2月21日付

産後4ヶ月

医療機関との連携

西洋医学では妊婦の食生活に薬が関係している
制限が多い → 妊婦が我慢している。
状況がわかるではないか。
東洋医学とのコラボレーションは、その解決に役立つ。

鍼のホリスティック作用の活用 → オキシトシン・オレフィン

感情の質 = 人生の質 が笑いの原動力
産後2ヶ月代に回復したい！

女の幸せは子どもが幸せに
つながる

- 産後女性のケアが必要なのか？
- ケアの安全化
- 産科現場での応用
- 医療機関での活用

不妊

未妊率 増加傾向。9割以上。女性-産後ケアの重要性

→ 初産代替医療の注目

1/3の女性が未妊 (若年層で増加)

未妊率が増えていると産後ケアの重要性が増える。

女性は妊娠で毎年1割以上減っている。
日本では5.5歳以下に1人が不妊。

42歳... 不妊治療でも妊婦率20%
その5割が流産。

9割以上の妊婦が
不安を感じている

妊婦によるマタニティブルー

金銭的、社会的な負担軽減

産後1年以内には妊婦の自殺率が2割に達する。

産後うつ (産後2~3週間 ~ 半年)

誰かの手を借りる必要がある。

→ 社会のサポートが必要。柔軟なサポートが必要

出生数が減っている。

子供の数は国に反比例している。

多職種間の
連携が大切。

○ 臨床現場

WHOが認定している全成条の適応疾患はどれか。

未病 → 病気でなければ健康とは言えない。
検査で異常なし → **病** せいですが
東洋医学

↳ 病氣に向けて前段階で提えて予防して...
ex. 血の巡りが悪いから... ねい

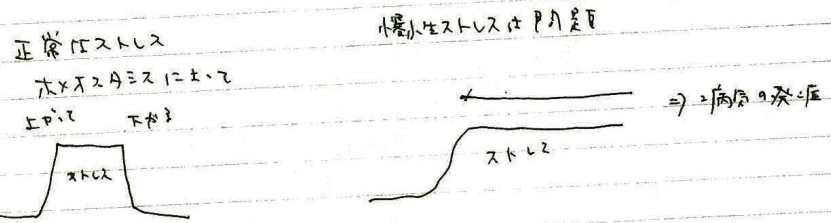
自律神経を整えたら未病に鍼灸は効果あり!

注射針 2mm
全成 0.2mm 長さも同じく5mm大針 (筋の種類によって太さ違う)

○ ストレスに対する全成条治療、マロニチンアロ应用。

ストレスは3種! (飢え、寒、暑、寒、環境)
逆打し ⇒ ストレス反応 for Fight or Flight!
"Fight or Flight!"
"Panic!"

↓
ストレスは動物に比べて、生きるとは必要で反応



慢性ストレス下における全成条治療
↳ 視床下部でオキトシンが増える
アロマ、サーミも増える!!

オキトシンの増加により、コルチゾール系ストレスを抑制する効果が有。

オキトシン → 母乳分泌、子宮収縮。
最近では感情にも作用する (中絶に作用) ということが分かってきた。
思いやりや絆はオキトシン

薬物に必要なこと。

- ・ 情報 - 神経形成
- ・ 性反応行動
- ・ 子宮収縮
- ・ 母乳の産生形成
- ・ 子育て行動

} すべてオキトシン
妊娠・出産の統合ホルモン

オキトシン → 心は良、互感、利己利他 → もともとも重要大切。

患者さんに解決する時は何をすればいいかも心せよ!

女性陣営にオキトシンは丈夫なわけ?

↳ 正期産にはオキトシンの子宮のオキトシンの感度作用が有。
胎盤から、オキトシンの分解する酵素が分泌されてる。

↓
陣痛促進剤を打つから授乳とそれ以外は大丈夫。
(オキトシン)

(1990) WHO. 全成条は陣痛促進剤を必要としない 妊娠4ヶ月以内出産3ヶ月以内はNG。
→ 現行は丈夫なわけないがオキトシンで解決。

No.

Date

・又月二行か?

たけなぐさ・アッカー・デ"けて"TRC.
総合的に、医学に基づいたアツクエツク。

日本鍼灸のつとめ。

・医療連携

西洋医学で解消した... 東洋医学の併用が有効。

本産科病棟に最も必要要素は妊婦のX2別室に在る。

産婦人科 産後37

不妊7112-7) ストレス軽減(=上), 妊娠促進。
又全。卵巣への血流改善。

中国

・今後、スターバックスのように... 3人組病棟に在る未来!

「... ばかり、口は付く」 (Y.W.)

Kazunori
Natsukawa

母と子をいっしょに育てる。～医療と共に取り組む女性のための金銭支援～
 講演者名：藤原 亜季子 / 株式会社天使のたろこ 代表取締役
 女性のための健康医療研究センター
 昭和大学医学部生理理学講座産生制御学部門

喜び、安心、納得、ゆとり

↓
 医学研究科博士

妊娠 → 出産 → 育児

ストレス、不安...

子どもは日本のカネがあり、社会で育てるものなのに、我慢を強いられる、悲しめる

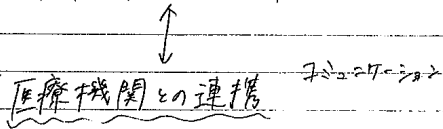
妊娠中や産後とストレスの関係
 → 妊娠中期の母体かつては流産や胎児発育不全が増えた

治療とワークライフバランスの融合

金銭的サポートの向上により自然治療力向上が、妊娠・出産・育児へのサポート
サービス精神

都内主要病院に入院されている妊婦さんの約6.5人に1人が通院

下妊治療、マタニティTP、産後TP



研究テーマ

鉄の赤血球ストレス作用：オキシシン、オキシトシン

感情の質＝人生の質 「いっしょに育てる」
 「いっしょに育てる」次の世代へ変えていく

★ 妊娠女性のTPが必要なのかな？

未婚率の上昇が、70%の女性3人に1人が未婚でいる

都市部 3人に2人

↓
 晩婚化、晩産化

↓
 下妊症のリスクが高まる 下妊治療を受けると、妊娠27週のT-Y、流産の可能性が高くなるT-Yあり。

妊産婦 感情がゆれ動く時期

産後うつ → 10人に1人

女性の幸福度を上げ、日本を母に希望と笑顔に溢れた社会にする

★ 臨床現場での応用

未病：病気がないけれど、健康とも言えない、命のせい

病角(向)からいれていくかをいらない

← 鍼灸

↓
 良い状態に持っていく

鍼 → 0.16mm (直径)

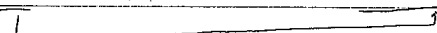
★ ストレスに付く金銭的治療とマタニティケアへの応用

動物にとってもストレスは生きていくために必要

人間のストレス：慢性ストレス → 病気の発症

妊娠中、産後、ストレスを感じやすい

鍼によるオキシトシンを介したストレス反応抑制



オキシトシンは感情に作用

~ 繁殖に必要なこと ~

- 信頼・絆形成
- 生殖行動 (射精・精子輸送)
- 子宮収縮 (陣痛)
- 母児の接着行動
- 子育て

オキシトシンの作用

心地良い五感の刺激を受けると、
オキシトシンの分泌を促進する

妊娠とオキシトシン

正期産には、子宮のオキシトシンに対する感受性、対症く抑えられている。
胎盤からオキシトシンを分解する酵素が分泌されている

オキシトシンを体外から投与しない限り、流産などの可能性は低い (A.A.)